

松陵小学校における森林整備作業

7月20日（金）酒田市立松陵小学校の五・六年生を対象とした「森林整備作業」が酒田市光ヶ丘の「万里の松原（「さえずりの森」1122林班国有林）」で実施され、松陵小学校五年生47名、六年生52名、先生4名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター4名、庄内森林管理署4名、酒田市農林水産課1名、庄内総合支庁森林整備課2名、万里の松原を親しむ会15名、総勢129名が参加しました。

当日の酒田地域は、朝から夏の日差しが注ぐ天気恵まれ、絶好の作業日和となりました。集合時間になると小学校五・六年生のみんなは、学校の体育館西側駐車場に集まり、五・六年生合同の1班から10班に分かれて、担当の先生から作業内容の説明を聞きました。当センター4名は、3～6班の班長となり、準備の整った班から「さえずりの森」の県道沿いの北側と校舎側の西側の二箇所に分かれて、草刈作業場所に向かいました。

ほとんどの児童が初めて手鎌を手にしての草刈作業です。各班の班長からは、手鎌の持ち方、草の刈り方など安全に作業するためのポイントなどの指導をし、草刈作業を開始しました。草は灌木と違って柔らかいことから、手鎌の刃先に引っかかってくれませんが、各班の班長が懇切丁寧に指導した甲斐もあって、徐々に草を手鎌で刈れる人が多くなりました。みんなが額に汗して一生懸命作業を行ったので、「さえずりの森」の地際が綺麗に生まれ変わりました。ある五年生の女子は、「手鎌を持って草刈りが出来たことに感激しました。」と答えてくれました。各班では、作業場所での振り返りを実施し、綺麗になった地際を眺めては、お互いの健闘をたたえ合っていました。

終わりの会では、6年生男子から「私は、以前、鎌で草刈作業をした経験があります。その時は、錆びた鎌で草を刈るのに苦労しました。今日使用した鎌は、草を楽に刈ることが出来ました。道具の良し悪しで作業が左右するものと感心しました。」と発表してくれました。この生徒はふれあいセンターで用意した鎌を使用しており、担当者として嬉しくなりました。また、参加者全員がケガなく無事作業が終了出来たことは何よりでした。

最後に、作業者全員で、汗まみれの顔を浴びて光る顔を記念に撮影し、頑張りをたたえ合って森林整備作業を終了しました。

松陵小学校では、総合学習の時間を利用して、この地域を飛砂や暴風から守ってくれている庄内海岸林（クロマツ林）の森林整備を平成18年度から継続して行っています。

学校としては、児童が実際に直接森林整備を体験させることにより、地域のクロマツ林を保全する意識を理解し、地域社会へ積極的に貢献する心を育成することを目的として、これまでも上級生（五・六年生）がクロマツ林の枝打作業などを実施してきました。

このような活動を今後とも継続して学校教育に活かすために、平成24年1月20日に松陵小学校長と庄内森林管理署が、1122い林小班、面積2.09haを「遊々の森（さえずりの森）」の協定を締結しました。これからも「さえずりの森」で活動が期待されるところです。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター